



平成 18 年 4 月 14 日

各 位

会社名 タカラバイオ株式会社
 (コード番号 4974 東証マザーズ)
 本社所在地 滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号
 代表者 代表取締役社長 加藤 郁之進
 問合せ先 常務取締役 木村 睦
 TEL (077) 543-7235
 URL <http://www.takara-bio.co.jp/>
 親会社等の名称 宝ホールディングス株式会社
 代表者 代表取締役社長 大宮 久
 (コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 3 月期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日) の連結業績予想 (平成 17 年 10 月 31 日公表) 及び単体業績予想 (平成 18 年 1 月 31 日公表) を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期 業績予想数値の修正 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(1) 連結

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	17,500	900	900
今回修正予想(B)	16,472	1,331	1,012
増減額(B-A)	1,028	431	112
増減率(%)	5.9	-	-
前期実績(平成 17 年 3 月期)	13,685	1,042	1,282

(2) 単体

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	14,500	650	1,460
今回修正予想(B)	14,096	610	1,621
増減額(B-A)	404	39	161
増減率(%)	2.8	-	-
前期実績(平成 17 年 3 月期)	12,836	795	1,074

(注) 業績予想につきましては、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであります。従いまして、平成 18 年 5 月 15 日発表予定の業績は、これらの数値と異なる場合があります。

2. 修正の理由

【連結業績】

当第4四半期の売上高は5,698百万円となり前期比1,517百万円(+36.3%)の増収となりましたが、当社が計画していた売上高の達成には至りませんでした。この結果、当期の通期売上高は16,472百万円と前期比2,787百万円(+20.4%)の増収となるものの、計画比1,027百万円(5.9%)の未達となりました。

事業分野別では、遺伝子工学研究分野の売上高が前期比1,977百万円(+16.7%)の増収となるものの計画比791百万円(5.4%)の未達となりました。これは当分野の主力品目である研究用試薬の売上高が、当期に買収したクロンテック社の連結効果もあり前期比1,974百万円(+30.0%)と伸長いたしました。計画比では581百万円(6.4%)の未達にとどまったことが影響いたしました。また、医食品バイオ分野の売上高は、健康食品の好調な販売により前期比819百万円(+48.0%)の増収となりましたが、計画比ではキノコ・健康食品とも下回り218百万円(7.9%)の未達となりました。

利益面では、売上高の動きに連動して売上総利益が前期比で809百万円(+12.7%)の増益となりましたが、計画比では598百万円(7.7%)の未達となりました。販売費及び一般管理費は計画比177百万円の減少(前期比はクロンテック社買収等により1,174百万円の増加)となりましたが、持分法投資損益の悪化等により営業外費用が計画比191百万円増加し、営業外損益を差し引いた経常利益は1,331百万円の損失と、計画比431百万円の未達(前期比289百万円の減益)となりました。投資有価証券評価損失等の特別損失906百万円が発生したものの、特別利益として持分変動利益等1,035百万円を計上した結果、当期純利益は1,012百万円の損失と、計画に対し112百万円の未達(前期比270百万円の増益)となりました。

【単体業績】

当第4四半期の売上高は4,513百万円となり前期比521百万円(+13.1%)の増収となりましたが、当社が計画していた売上高の達成には至りませんでした。この結果、通期売上高は14,096百万円と、前期比1,259百万円(+9.8%)の増収となるものの計画比403百万円(2.8%)の未達にとどまりました。販売費及び一般管理費の節減や営業外収支の改善等により、経常利益は610百万円の損失となり、計画に対し39百万円改善(前期比185百万円の増益)いたしました。当期純利益は、投資有価証券評価損失667百万円及びホンシメジの量産化に際して発生した損失216百万円等の891百万円を特別損失に計上した結果1,621百万円の損失となり、計画に対し161百万円の未達(前期比547百万円の減益)となりました。

【グループ会社の業績】

当社のグループ会社のうち業績修正に影響を及ぼした主なものを説明します。クロンテック社の売上高は、買収後の4ヶ月間で1,437百万円となりましたが計画に対しては289百万円の未達となり、加えて買収時の時価評価差額償却等も499百万円と約1億円増加したことから、経常利益は計画に対し259百万円未達の501百万円の損失となりました。販売子会社であるタカラコリア社では、研究用試薬等の流通在庫の適正化をはかったことから売上高が計画比107百万円、経常利益が計画比55百万円それぞれ未達に終わりました。また、持分法適用会社のパイロメド社が発行済のストックオプションについて費用計上を行ったこと等により、当社の持分法投資損益が計画比129百万円悪化(営業外費用の増加)いたしました。

以上のことから、通期の売上高・利益予想を下方修正せざるを得ない状況に至ったものであります。

以上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。